

令和 8 年 8 月 4 日

川岸 貞利 議長 殿

視察報告書

公明党議員団

堺谷 裕 谷口美保子

日 時： 令和 8 年 7 月 3 1 日（金） 10 時～11 時 30 分

場 所： 和歌山県橋本市東家 1 丁目 1 番 1 号

研修所名： 橋本市役所

目 的： 人口減少時代の教育行政について

講 師： 今田 実 教育長 岡 一行 教育部長

行政視察報告書

人口減少時代を切り拓く橋本市の教育行政

【1】教育長の熱き思いと「第 3 期橋本市教育大綱」の理念

橋本市の教育行政の根底には、今田実教育長が強く進める第 3 期教育

大綱の理念「人が学びあい、共に育むまちづくり ―自治と協働のまち橋

本市に向けて―」が脈々と流れています。人口減少という厳しい現実

に対し、教育長はこれを「教育環境を抜本的に見直し、質の向上を図る好

機」と捉えています。その決意は、目指すべき子供像「未来を創造し、たく

ましく生きる」という言葉に凝縮されています。単に知識を習得するだけでなく、多様な考えに触れ、思考力や問題解決力を地域全体で育むことこそが、これからの時代を生き抜く力になるとの強い信念が伺えました。

【2】「橋本市新しい学校づくり推進計画」の展開

市は 2026 年度(令和 8 年度)から 10 年間を計画期間とする「橋本市新しい学校づくり推進計画」を策定しました。この計画は、単なる学校の統廃合ではなく、子供たちにとって「より望ましい教育環境」を再構築するための挑戦です。

① 学校再編の断行と「2 学級」へのこだわり

橋本市では、現在 14 校ある小学校を、2032 年度(令和 14 年度)までに 9 校へと再編する方針を示しています。特筆すべきは、「各学年 2 学級以上」の維持を目標としている点です。これは、クラス替えができる環境を確保し、固定化されない多様な人間関係の中で、切磋琢磨し合う経験を保障するためです。教育現場を知り尽くした教育長の「集団の中での学び」を重視する姿勢が、この基準に強く反映されています。

② 施設の「共創空間」化と木質化

再編される学校は、単なる学び舎を超えた地域拠点として再生されます。校内には地域住民と子供が共に活動できる「共創空間」を配置し、交

流のきっかけを創出します。また、内装には効果的な木質化を施し、温かみのある快適な学習空間を創造しています。

【3】縦割りを排した「はしもと型」連携モデル

橋本市の教育行政の最大の特徴は、行政の枠組みを超えた有機的な連携にあります。

① 学校と学童（放課後児童健全育成事業）の融合

通常、子育て支援部局が担当することの多い学童保育を、橋本市では「教育総務課」が所管しています。これにより学校と学童の「縦割り」が解消され、空き教室の活用や児童情報の共有が極めてスムーズに行われています。視察では、放課後の時間を「預かり」ではなく「学びと育ちの延長線」と捉え、地域 NPO が学校運営協議会（コミュニティ・スクール）に深く参画している実態を学びました。

② 「9 年間の切れ目ない学び」

中学校区を一つの単位とし、地域資源を教育課程に組み込んだ「はしもと型学校・地域連携カリキュラム」を推進しています。小学校から中学校卒業まで、地域に見守られながら一貫した理念で育つ仕組みが構築されています。

感想

「人が学びあい、共に育む」という理念が制度としてだけでなく、地域の「文化」として根付いている橋本市の姿は、本市の今後の教育行政の在り方に大きな希望と示唆を与えてくれるものでした。この学びを本市の施策に反映させ、子供たちが未来をたくましく切り拓ける環境づくりに邁進してまいります